

平成27年度 第1回櫛引地域振興懇談会 (会議録・概要)

○日 時：平成27年6月30日(火) 午後1時30分から午後3時35分まで

○会 場：櫛引庁舎 第一会議室

○出席者：敬称略

(出席委員) 渡部俊美、成田進、成田新一、武田啓之、澤川宏一、遠藤勉、小島英敏、上野由部、今野慎太郎、斎藤ゆう子、長南光、重松美鈴、秋山篤司

(欠席委員) 佐久間忠勝、宮城良太

(市側) 櫛引庁舎支所長 榊原賢一、総務企画課長 佐藤浩、市民福祉課長 山口弘男、産業課長 宮崎哲、建設部南部建設事務室長 伊藤哲哉、地域振興課地域振興専門員 齋藤芳、市民福祉課課長補佐 天然せつ、産業課課長補佐 松田重和、南部建設事務室主査 山口登志明、総務企画課課長補佐 前森淳子、同課コミュニティ防災専門員 鈴木賢、同課総務地域振興専門員 大宮将義

一次 第一

[辞令交付]

1 開 会

2 あいさつ

3 委員・職員紹介

4 会長・副会長の選出

5 報 告

(1) 平成27年度の櫛引地域振興懇談会の進め方について

6 協 議

(1) 平成27年度櫛引庁舎の主な取組みについて

(2) その他

7 そ の 他

8 閉 会

.....

総務企画課長

本日は、お忙しいところご参集いただきありがとうございます。はじめに資料の確認を行います。

－配布資料確認－

それでは皆様のお手元にあります次第によりまして進めさせていただきます。開会に先立ちまして、委嘱状の交付を行います。本懇談会には委員の皆様15名の方からお引受いただいております。この委嘱状の交付につきましては、大変恐縮ではございますが、代表交付ということにさせていただきます。この次第の次ページに、本日の名簿が記載されております。この1番目に記載されております櫛引区長会の会長であります渡部俊美さんから、代表して辞令の受領をお願いしたいと思います。なお、辞令は榊原支所長より交付いたします。

－ 辞令交付 －

総務企画課長

ありがとうございました。他の委員の皆さんには、大変恐縮ではあります。席の上に

委嘱状を配らせていただいております。2年間どうぞよろしくお願いいたします。

1. 開会

総務企画課長

それでは、ただ今から平成27年度第1回榊引地域振興懇談会を開会いたします。
初めに榊引庁舎榊原支所長よりごあいさつ申し上げます。

2. あいさつ

榊引庁舎支所長

皆さん、こんにちは。今年度より榊引庁舎支所長を務めております榊原です。どうぞ、よろしくお願いいたします。ただいま委員の皆様へ委嘱状を交付させていただきました。委員の皆様方におかれましては、快く委員を御引き受けいただきまして、また今日はお忙しい中、第1回の榊引地域振興懇談会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。日頃、それぞれのお立場から地域振興に格別のご尽力いただいておりますことに厚く御礼申し上げますとともに、これから2年間、どうぞ、よろしくお願いいたします。

はじめに、私の方から地域振興懇談会の趣旨について、すこしご説明いたします。前身である榊引地域審議会ですけれども、合併特例法に基づき平成18年に設置されまして、合併から10年間、市長の諮問に応じて審議したり、市長に意見を述べる事ができる機関として、延べ27回の会議を開催し、平成23年、25年度には、提言書をまとめて市に提出していただきました。本日ご出席の皆様の中には、元地域審議会委員であった方もいらっしゃると思いますが、これまで貴重なご意見を賜りましたことに、改めて感謝申し上げます。

合併特例法に基づく地域審議会は昨年度をもって終了となりましたが、本市の総合計画実施計画の策定や、地域振興計画の推進については、引き続き幅広い視点から意見を伺う必要があることから、今年度新たにこの「地域振興懇談会」を設置したものであります。市長の諮問機関ではありませんが、今後の地域振興の取組みや方向性やより良い振興策・活性化策などについて、引き続き公共的団体の代表者や有識者の皆様から、ご意見を頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

本日は第一回目でありますので、今後の「地域振興懇談会の進め方について」ご報告申し上げます。そして協議では「27年度の榊引庁舎の主な取組みについて」をご説明させていただきます。その後は、せっかくの機会ですので、皆様から、各々の立場で日頃抱えている思い等を発言していただき、意見交換ができればと考えております。

この懇談会を通して、委員の皆様のご意見を伺いながら、鶴岡市、そして榊引地域における地域振興施策等に生かしていきたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。皆様方と一緒に協議していきませぬ懇談会が有意義なものとなりますように、ご祈念いたしまして、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

3. 委員紹介

総務企画課長

続いて3番、委員、職員の紹介に移ります。本日ははじめて設置をされました地域振興懇談会、第一回目でありますので、恐縮ですが自己紹介を賜ればと思っておりますので、お願いを申し上げます。順番は名簿順でお願いいたします。なお、本日、都合により欠席となる旨の連絡を頂いているのは8番の体育協会会長の佐久間忠勝さん、15

番の宮城良太さんのお二人ですのでご報告させていただきます。出席委員の自己紹介を渡部さんから順にお願いいたします。

— 略 —

出席委員の自己紹介が終わりましたので、職員側の自己紹介をお願いいたします。

— 略 —

総務企画課長

それぞれ、自己紹介ということで、ありがとうございました。

4. 会長・副会長の選出

総務企画課長

では、次第の4番目の会長、副会長の選出ということで進めたいと思います。皆さんにお配りしました設置要綱の第5条によりますと、会長1名、副会長1名を委員の互選で選出することになっております。選出の方法についてですが、皆様いかがいたしましょうか。

（「事務局案はありませんか」という声あり）

それでは、事務局案ということでありましたので、私どもから提案させていただきますのは、会長に区長会会長の渡部俊美さん、副会長に婦人会会長の斎藤ゆう子さんを推薦させていただきますので、皆さんの決定を賜りたいと思います。

（「異議なし」という声あり）

皆さんから異議なしのご発言がありましたので、そのように決定させていただきたいと思っております。渡部会長から一言、ごあいさつをお願いいたします。

会長（渡部俊美委員）

会長という重責を担うこととなりました。昨年度までは地域審議会という名称でありましたが、今年からは地域振興懇談会となりました。地域振興を進めていくにあたり、会議の性格が似ている部分もあるかと思いますが、振興施策について改めて協議していくという会議にさせていただければと思っておりますので、皆様からのご協力をお願いいたします。

総務企画課長

では、副会長の斎藤ゆう子さんにも、一言ご挨拶を頂戴いたします。

副会長（斎藤ゆう子委員）

副会長という身に余る大役ですが、渡部会長を補佐していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

総務企画課長

それでは、よろしくをお願いいたします。

5. 報告

総務企画課長

次に次第の5番目に移ります。5の報告、(1)平成27年度地域振興懇談会の進め方について、皆さんにご報告を申し上げたいと思います。説明は総務企画課総務地域振興専門員の大宮より説明を行います。

総務地域振興専門員 説明

資料1 一略一

総務企画課長

簡単な説明でありましたので、内容について、あるいは進め方についてご質問があればこの機会に伺いたいと思います。

委員

要綱の第2条(2)地域課題、地域活性化全体に関する事で質問ですが、地域審議会委員であったことからの視点ですが、地域庁舎のなかで社会教育・社会体育の施設整備の関係について議論する場がないと感じていますので、この地域振興懇談会が所掌する(2)地域課題、地域活性化全体に関する事項で触れていいのかどうかの確認です。

総務企画課長

この件については、地域審議会の議論の際にも、担当課がないということもあって、苦慮した部分もあると聞いています。ただし関連する事項が前もってわかれば、担当職員から来ていただいて意見交換してきたという経過がございます。この懇談会についても、会議毎にテーマを設定するというところでありますが、あらかじめ委員の皆さんからご意見を頂戴することにして開催するのであれば、その案件によって担当職員の派遣を願ってこれに対応するという考え方もございます。今のご意見を私ども承って今後の会議の進め方に生かしていきたいと思っております。私ども庁舎は3課体制になっております。やはり、この枠を超える分野も多々あるということでもありますので、そのあたりは会議の進め方の中で、予めご質問を頂戴するというにすることにするか、ご意見を頂きながら、今後の会議を進めていきたいと思っております。なお、先程申し上げました総合計画の実施計画の中には全体が含まれますので、こういったところを事前送付をして、なお、ご意見を賜って準備をするということもあるかもしれませんので、今すぐ、固まったことを申し上げられなくて大変恐縮ですが、そのようにお願いを申し上げます。

他に質問はございますでしょうか。なければ次に進めたいと思います。

6、協議

総務企画課長

6、協議についてですが、設置要綱第6条により会長は会議の議長を務めるということですので、渡部会長から議長となって進行をお願いしたいと思います。

会長

それでは、暫時の間、進行させていただきます。

(1) 平成27年度櫛引庁舎の主な取組みについて、事務局の説明をお願いします。

櫛引庁舎支所長～総務企画課長～産業課長～市民福祉課長～南部建設事務室長 説明

資料2 資料3 一略一

会長

それでは、ただいまの説明に対して、質問したいこと、またご意見のある方はいらっしゃいますか。

委員

櫛引型の広域コミュニティ組織についての検討ということですが、具体的にどのようなイメージなのでしょうか。

総務企画課長

櫛引型の広域コミュニティということですが、これも地域審議会のテーマのひとつとして、既に提言書も頂戴しているものですが、他の地域については地区公民館があって、それぞれの集落を束ねる組織があったわけでありますけれども、藤島でいうと5つの地域活動センター、羽黒は4つ、朝日は3つということで、広域コミュニティを進めていく活動拠点があり、広域コミュニティをつくってきたということです。櫛引の場合は、集落の合併を進めながら21地区に統合され、なお、関係団体の皆様がお集まりでございますが、小学校区単位での組織ではなくて、櫛引ひとつとして各組織が形成されているということです。もちろんPTAは小学校区単位というものがありますが、その他の団体については櫛引ひとつとして組織化されているということで、他地域のように小学校区ということはしないできた経過がありまして、櫛引型と言っているのは、櫛引ひとつとして広域コミュニティを探るということでございます。地域審議会の提言にもそういう歴史を踏まえてきたので、ぜひ、前向きに検討していくべきだという意見も書いてありますが、櫛引ひとつとして考えていってほしいし、それを行政でも支援していってほしいという提言の内容となっておりますので、これを櫛引型と言っております。

委員

ということは、ブロック化しないということで、櫛引ひとつという考え方ですか。

総務企画課長

先程も、地域コミュニティの方でも説明しましたが、提言として、私どもも承っているわけでありますが、その方向性を、こういう方向でと、きちんと定めたということではありませんので、重要なお意見でありますので、この提言をきちんと捉えながらも、他の先行する地域の状況なども調べて、いろんな相談をする組織、この組織もそうでありますけれども、話し合いをしながら、ご意見を聞いて、その方向性を急がず作っていきたいと考えております。あくまでも、事務局ベースで、作業は進めてはいますけれども、皆様からご意見を頂く時期になりましたら、これも地域振興懇談会のひとつの内容として、ご意見を頂戴する予定です。

委員

市民福祉課と学校教育に関係するのですが、地域の要望がありまして、南部保育園だけが時間延長がなく、松根地区から東部保育園に入っている児童がいるという実情です。朝早く、夜遅くまで預けられないということのようです。それと学童保育は、櫛引西小学区、次に東小学区と作ってきたわけですが、南小学区では核家族ではなく、お孫さんの面倒を見れる状況があったので必要ではなかったのが良かったのですけれども、それを支えてきた方々が高齢化になってきたという背景があります。南小学校区単位でもそういう保育園についても朝早くから、夜遅くまで開設することができないのかということと、学童保育も南小学校区から東小学校区に行っているケースも聞いていますので、そういう要望というか議論してもいいのかと思いますが、この辺の状況についてお聞かせ願えればと思います。

また、地域コミュニティの活性化ということで、担当職員制度になったわけですが、課題等について、それぞれの地区で検討してもらえないかということではなくて、地区でこういう話しをしていただきたいので依頼するといった形にならないのか、その確認をお願いしたいと思います。

市民福祉課長

南部保育園の保育時間の延長に関してのご意見、要望があったということで社会福祉協議会にお伝えしたいと思いますが、櫛引地域ではくしびき保育園とくしびき西部保育園で延長保育を行っており、ご利用頂いております。あと、もう一点、学童保育の関係では櫛引南小学校の生徒さんは、今年度6人が下校後に東小学校での学童保育を利用頂いております。一定程度、コンスタントに利用者がいないと開設ができませんので、そういう形をとっています。なお、状況が変われば、また違った面も出てくるのかと思いますけども、今の段階では、学校側からお聞きしたところ、現在より大幅に利用者が増加する状況には無いと伺っているところでございます。

総務企画課長

地区担当職員制度は3年目を迎えますが、今年度も区長会で説明をして、地域づくり懇談会を開催する方向で検討してくださいとお願いをしております。今年度は空き家調査の現況調査を担当職員を通して区長さんと調整をして各集落を周って空き家の件数を抑えるという作業を担当職員と進めさせていただきました。他に地域づくり懇談会をするということになりますけれども、これは地区と担当職員、私ども管理職であります班長が調整をしながら進めてきたところであります。会議の形態については様々であります。庁舎からこういったテーマで協議させてもらいたいということは、あまりありません。地区からこういった内容で話しを持ちたいと言っていたら出掛けるということでございます。特徴的なのは松根地区と下山添地区との間で地域づくり懇談会をやって、それぞれの地域活動の進め方について、様々、意見を交わして、なお懇親をしたということもございまして、宝谷のように戸数が減ってきて、いよいよ大変だということは地域おこし協力隊として、朝日地域に派遣されている方々から講師に来ていただいて、遠方から来ていただいて、過疎化している地域での活動を聞いたり、あらかじめこういったことをやってもらいたいという要望事項を挙げてもらって、それを私どもである程度、その答えを持ちながら、お邪魔する懇談会ですとか、いろんな会の持ち方がございます。こういう集落づくりをしたいので、この進め方について、ともに協議をして進めていきたいと思います。こういう集落づくりをすれば、私ども何回も出向くことができますので、そういったことも含めて活動してまいりたいということでございます。

委員

はじめてなので確認したいのですが、この懇談会の流れの中で、第2条の協議事項の内容は、いままでのような形で進めてこられたのかどうか。私が思ったのは、例えば櫛引型の広域コミュニティ組織を構想するという、これが一番大きい課題だと思うのですが、これを組織化していくには、例えば21ブロックの網目を作って、どう吸い上げて一本に固めていくか。一本に固まらなければ、櫛引型の広域コミュニティになっていかない。そのためには、どうしたらよいかという知恵出しを皆さんで行っていくのだろうと、ひとつ考えるわけです。そうした時に、我々が持っている課題とか、要望とか、と同時にこの懇談会という組織の中で、何を求めようとしているのか、見えなくなってしまうかもしれないだろうなと感じたものですから、その中で地域課題及び地域活性化全般に関する事項のこの全般というのが、どこまで含まれていくのか。例えば、自分が持っている課題、これが全体に

関わっていくのかどうか。課題を出せば協議ではなく要望の場になってしまうと、そうなるのもうまくなかろう。そういったところをどうやって、この組織を展開させていくことが、よりベターなのか、ベストなのか、見えなかったもので、その辺のことを、今でなくてもいいので、お知らせ願いたい。それと同時に櫛引型広域コミュニティ組織というものが構築中であると伺っていますので、青写真が出た時に確認して、進められた方がよいのかなと思いました。実際は、自分が思っている課題があります。それでは、どうしたらよいか。王祇会館も思っていますけれども、これが果たして、この場に出していいのか、そこが疑問に思っています。

櫛引庁舎支所長

貴重なご意見ありがとうございます。懇談会でご協議いただく協議事項でありますけれども、冒頭、地域振興ビジョン、総合計画の実施計画について、皆さんからのご意見を頂くということでありまして、先程の話がありましたように、テーマを設定して、そのテーマに沿った形で、意見交換をしてもらおうということもでございます。そのテーマの一つとして、広域コミュニティのあり方について課題を設定して、ご意見をいただくことも出てくるのかと考えております。皆さんからご意見をいただきながら、どのように進めていくか、私どもも対応していきたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

委員

課題と期間を設定していただいた方が、こちらとしては有難いので、どうぞよろしく申し上げます。

会長

他にございませんか。なければ(2)その他では、委員の皆さんから、日頃感じることがありましたら、ご意見をお伺いしようと思っておりますが、何かありませんでしょうか。

櫛引庁舎支所長

本日、皆さんからお集まりいただき、折角の機会ですので、できればそれぞれの立場で、何かご発言いただき、意見交換できれば有難いと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

委員

この庁舎の主な取組みになかったもので、確認ですが、在来作物について、宝谷の遠藤さんもいらっしゃいますが、櫛引には宝谷かぶという希少な作物があるわけです。在来野菜といえど50種類もあるなかで、温海かぶとだだちゃ豆が脚光を浴びていますが、時期が限られています。何とか宝谷かぶもいろんなところでPRをできたらいいのではないかなと思うのですが、実際、収穫量がどうなのかということがあります。これからフルーツの里のブランド化を実践に移していくなかで、首都圏での農産物販売も効果を上げていると思っておりますけれども、その際に宝谷かぶの漬物などをテコ入れしていくことはできないのでしょうか。ただ量が少ないのかキャバはどうなのでしょう。

委員

たしかに量が少なく時期的に限られてきます。宣伝が足りないようですが、奥田シェフあたりが宣伝すれば、ある程度量も作れるのかなと思うのですが、宣伝が課題と自分では思います。

委員

個人的には、宝谷そばとうまく掛け合わせて宣伝できないものかなと思います。やはり宝谷で食べるのが一番良いと思っているので、我々も食べてもらって宣伝もしていますけれども、やはり地元の方にも関心を持っていただければと思いますし、加工にも向くかぶ

なので、宝谷かぶ、藤沢かぶ、温海かぶなど庄内にこういうものがありますとお話しをして見せています。西荒屋の甲州ぶどうも在来の果樹なのです。でも、なんとなく大玉から押されてだんだん少なくなっているのですけれども、場合によっては西荒屋で作った物が良い方向で売れているようなので、その辺も大事にしてほしいと思います。自分が作っていなくて、頑張してほしいというもおかしいですが、やはり特徴があって、その地域のブランドになれば、もっと交流人口を増やすことができるのではないかなと思います。私も民宿をやっているものですから、全国からお客さんが来ると、一日でも多く滞在してもらって、地域内の文化とか資源とかを見て回って、五感で感じてもらって、ファンを増やしていくという方向で取組んでいます。在来作物は特別な資源になるのではないかなと思います。

総務企画課長

いまほどの話は地域活性化策で山形大学の研究会があって、その時にも地域特産の話になって、宝谷かぶを売り込みたいという話がありました。おろして使うには美味しいものなのですが、煮るとやわらかくなりすぎて、漬けると堅くなりすぎるという特性を持っています。その中で乾燥させて、スライスしてチップにするとか、乾燥させたものを戻して料理に使うとか、これが一番いいのだろうということになったのですが、乾燥機を買って、販売する許可をもらってというところまでいくことなど、まだ課題があるということです。今は、次の展開を考えているということです。売れていくという仕組みが出来ること、まだまだ宝谷には技術があって面積を増やすことができるということなのですが、やはり所得に繋がらないと、面積が少なくなってきたりして在来作物も尻すぼみになるとのことです。なんとか生のままで売りたいけれども非常に難しい作物だと言っていました。補足させていただきました。

委員

あぐりでも宝谷かぶを売りたいので、もってきてもらいたいと言ったが、なかなか持ってきてくれなかった。レシピをつけて売りたいのだが。

委員

乾燥機がなくても大丈夫ですか。

委員

私は自然乾燥しています。室内で大丈夫です。

委員

今の宝谷かぶの話ですが、かぶの中でも白かぶ、赤かぶがあるわけですが、角型の三角種なので、産毛がすごく残る。あれを採るのに農家の手間がかかるんです。ブランド品として売ろうとすると、収量の問題もあるし、手間暇かけても、それなりの成果が出なかった経過があります。むしろ赤かぶの場合は、輪作さえさすれば、いいものができるということで、土地の状況もあるし、問題は恐らく、収量、採算が合うか合わないか、その辺でとん挫してしまっていて、なかなか普及しないというのが現状であります。

委員

同じようなケースであります。王祇祭の凍み豆腐ですが、けっして美味しいものではない。あれを、いろんなところで売っても、売れるわけがないとなるわけです。それを10年近く前に女子生徒さん達が、豆腐をアレンジして、さまざまな料理を作ったわけなんです。それを王祇会館でその研究会をやった時に、地域の方々は、そのアレンジに、例えばチーズが入ったり、豆腐を砕いてハンバーグにするとか、様々なアイデアを出して、我々から見ると結構やるじゃないかと思ったのですが、ご年配の方から見ると、「そんなもの」

となるんです。我々が、ハンバーグにしたものを使うわけではないのだけれども、発想の転換というものをさせるまでが大変だったと思います。今回、我々が奥田シェフを呼んだのは、そこにあるのです。奥田シェフが在来モノを探しに行って、見つけて農家と話しをして、こんなものがと大概言われるそうですが、これはいいよと奥田シェフから言ってもらおうと、理解と納得が早いということです。今回、それを狙っているのは、王祇祭で出す料理とか、精進料理とか、あともうひとつは水焔の能でだしている食を見ていただいて、奥田シェフの息がかかるようなものを一品出してもらえないかという打算的なものを持っています。ただ内陸を見ると、そうやってひとつ瓶のラベルに書いてあって、売れているというのが非常に多いですね。打算的な考えというのが、いいか悪いか別にしても、そういう新しい目でみていくようなことをしていかないと、若者が取りついてこない。若者をいかに地域に呼び込むかというのが、ここにあるのです。だから在来のモノの良さをみんなでもアピールしていかなければならないと思います。それには付加価値をつける偉い人がいないとダメだと思うのです。偉い人を活用していくためには、我々だけではできなくて、行政の力も必要だと感じるわけです。

婚活だって農協の青年部の方でやった婚活でカップルができています。こういう似たような活動をしているところに、いろんな要素が含まれているわけです。そういったものがねらい目として、吸い上げていって、横並びとして支援していった方が面白いと思います。大学生が能をやっているグループが結構あるわけです。その能をやっている学生が夏合宿をはじめますが、私は、黒川能で民宿を活用しながら、場所を提供して、こちらによってもらって、大概、女子が多いので黒川の若者と交流させてやろうかなと考えるのです。それが縁で若者が定住してもらえれば、有難いなと思っています。そういった小さな活動が大きな活動になっていく。それらを拾いあげていくと、目に見えるものになっていくのではないかと思うので、支援をいただければ、面白いかなと思います。

委員

奥田シェフが作るピザには、宝谷かぶをのせるんですけど、塩コショウとオリーブオイルだけの非常にシンプルなものです。今回、黒川能保存会で奥田シェフを呼んでくれたというのは、突破口を開いてくれそうな感じがすると期待しているところです。ここは鶴岡市ですが、庄内町のクラッセが6次産業ということで、乾燥機をグループを組んで借りてつくることができるようですが、なかなか高くてきっちりとしたグループを作らないと容易でないと感じました。そういった、希望があるとしたら、6次産業化に向けて先程の説明では設備を整えるには大変だとおっしゃっていましたが、そういうところに借りた場合に補助金を出すとか、何かの支援をしていくというのもあったほうがよいのではないかなと思いました。

委員

乾燥機の件ですが、普及センターも乾燥機を貸していますし、去年は最初から買わないで試作段階では、いくら使ってもいいと思うので、そういう施設を使ったほうがよいと思うし、乾燥ものは乾物なので許可はいらないはずで。例えば、宝谷そばを食べさせる時に、宝谷かぶの漬物などを食べさせて、そこで乾物を販売すれば、消費拡大に繋がるのではないかなと思っていました。やっていけば農家の方も増えるのではないかなと思っています。宝谷かぶは乾燥にすると原型を止めないし、加工品なので大雑把に切るのも、そんなに面倒ではない気がします。だから宝谷そばと一緒に宝谷かぶも売れたらいいと思うし、櫛引の民宿で多くの人に食べてもらえれば、宝谷かぶの宣伝になると思います。あと凍み豆腐ですが、30年前に漆山先生から来ていただいて、和食を試作してもらったことがあ

るのでずか、現在の方が食べやすく、いろんな方に広まるような料理の仕方を学んでいけたら、黒川の凍み豆腐で農業振興に結びつくようなことができればいいと思います。

会長

ただ問題は、労力をかけてやっていくかどうかということです。取組んだらどうなるのかというのが気になるわけで、地域の方のやる気次第だと思いますし、人を頼るのも大切ですが、自分達でやってみるといのが大事であると思います。地域の人達も、2、3人でやれるとなれば、そういった働きも大切ではないかと思ひます。

産業課長

貴重な意見ありがとうございました。在来作物は非常に良いですし、取組んでいきたいという気持ちはあったのですが、宝谷かぶにしても、「かぶ主」を募って取組んだ時期もありましたが、少し低調気味になってきています。具体的に、どう取組んで農業振興や地域振興に活かしていったら良いのかということ、少し考えていたところですが、こういった場で皆さんからご意見を頂きましたし、こうしたら可能性があるんじゃないかという意見を聞いて本当に良かったと思ひます。今後の参考にしていきたいと思ひます。

会長

他にございませぬか。宝谷かぶ以外の件でもどうぞ。

委員

先程、ワインの話が出ましたが、たがわ農協もワインを作っているのですが、去年初めて甲州を使ったワインが全国で金賞をもらったのです。銀賞、銅賞までいくのですが、金賞は初めてでありまして、その原料が甲州ぶどうなのです。ぜひ、多く作ってもらいたいというのが本音です。山ぶどうより、甲州ぶどうの方が売れるのです。今、何件ほど登録しているのでしょうか。

委員

登録は30件で、年々少なくなっているのですが、高く買ってもらえれば有難いのですが、実際は安いのです。

会長

甲州ぶどうは価格変動が激しいと聞いたことがあるが。

委員

甲州は在来で非常に優秀な品種であり、保存がきくし、うまく保存している農家では3月まで保存して売ることできるようです。ワインの原料となると実際は安いのが現実ですが、以前と比べると改善されている印象です。

委員

私も甲州ぶどうを作っていますが、高齢化してきており作業に費やす時間が非常に少なくなってきた、デラウエアのように非常に手が掛かるものに比べると、手の掛け方から言えば、金額は安いかもしれないけども、労働時間から言えば少なくとも収量の見込めるものなので、甲州ぶどうを取り扱ってもらう農協サイドからも働きかけがあれば有難いです。

委員

事業を見せていただいた感想ですけども、様々、こういったご意見を、ぜひ連携して前向きに、例えば施設間同士もそうですし、ゆ〜Town やスキー場とかいろいろあるわけですけども、そういう施設を含めた観光連携を行い、地域の推進をしていただければ有難いですし、PRも黒川能もありますので、ぜひ連携してやっていくようなスタイルをお願いしたいと思ひます。

委員

折角の場ですので、お話しさせていただきたいと思います。櫛引地域振興計画の3つの柱の(2)にスキー場の利用促進とあります。私はたらのき代スキー場が大好きなんですけれども、9ページのスキー場管理運営の中に圧雪車の年次的更新を行っていくという記載がありますが、実際、ここ数年、圧雪車がうまく稼働していないと思えるのですが、更新はいつ頃を予定されているのでしょうか。あと、スキー場の食堂なんかの特産品なんかのメニューを入れてみれば、情報発信にもなりますし、ピザも面白いなと思いますし、少しでもたらのき代スキー場の来客増への要素にならないかなと考えるところです。

産業課長

圧雪車については、今まで使用していたものが故障して動かなくなって、去年、羽黒にあった中古のものを譲り受けていたのです。羽黒のものも古くなって、新しく買ったので、中古で出てきたものなので、そんなに新しいものではないですが、予算要求をして27年度は予算が付かなかったのですけれども、次年度以降も予算要求していくつもりであります。予算なので付くかつ付かないか約束はできないのですが、そのように予定しています。スキー場ロッジの件ですが、非常に良い意見でありましたので、参考とさせていただきたいと思います。

委員

たらのき代スキー場の件で、小学生は割引があるのですが、中学生になったら何もない。もし、中学生にも割引が適用されたら、中学生の利用も相当変わるのではないかと思っていました。あと、たらのき代スキー場に夏使用できるピザ窯が置いてあるのも、夏場の利用促進にいいのではないかと思うのですが、故障していて直らないままになっていたので、夏の利用の仕方について、皆さんからアイデア出しを、冬に限らず夏も利用できるのではないか思いました。

産業課長

参考にさせていただきます。ありがとうございます。

委員

自分が懇談会に参加させていただききっかけというか気持ちですが、実際、私も5歳になる子どもを育てて、自分が生きてきた地元黒川が大好きで、黒川能に携わってきて益々のめり込んで、地元から離れたくないと思っています。このコミュニティの中で、私達がどうやって子ども達を育てていくかということに、考えがいつています。先程、産業とか学校をうまく、武田委員もおっしゃっていましたが、せつかくある食文化とうまく連携していけば、何日滞在しても、十分楽しめる地域だと思うのです。そうしたところを自分達が、魅力を見つけていって、発信していければと思います。私も聞いた話しですが、ある雑誌では県外から移住してみたい地域で鶴岡市が東北No.1らしいです。いろんな魅力が海のもの、山のものもあるし、人間的な魅力もたくさんあると思います。そうしたところを、この懇談会を通じて、まとまっていけば、余所に絶対ない観光地、魅力的な地域になると思いますので、その力添えになればよいと思って参加させていただいています。先程、上野委員からありましたけれども、地域の皆さんの意見をどうやって吸い上げていくのかということや、どうやって形を作っていくのかということが、この懇談会で話し合っ

会長

皆さんから、非常に貴重なご意見を賜りました。今後の意気込みとして支所長から一言お願いします。

櫛引庁舎支所長

この懇談会で大変貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。皆様の、地域を思う気持ちがひしひしと伝わってくるご意見でございました。若者からご年配の皆様まで、みんなでこの地域をどのようにしていくか、知恵を出し合いながら、地域活性化のために皆さんと頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いします。今日はありがとうございました。

会長

それでは、事務局に返します。ご協議ありがとうございました。

7. その他

総務企画課長

それでは、7. その他ですが、チラシの説明を産業課長が行います。

ー 水焰の能チラシ等について説明 ー

8. 閉会

総務企画課長

それでは、以上ということにさせていただきます。今般は初回ということで、説明が長くなりまして皆さんから意見を伺うという時間が少なかったかなと思います。ただ先程、委員の皆さんからありましたように、テーマを設定しながら、重要な案件について皆さんからご意見を頂戴したいと思っております。その他にも、地域振興に携わる自由な意見を交わして、その中から政策を作っていければ、それもまた素晴らしいことだと思っております。そういうことを踏まえて、第2回、第3回と会のあり方についても、私ども考えながら、ご案内をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。それでは、予定された時間を少し過ぎましたが、以上を持ちまして平成27年度第1回櫛引地域振興懇談会を閉会させていただきます。長時間ご苦勞様でした。

15 : 35